



Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究抄録(2022.4)令和2・3年度:

ICU への 2/3 ↑ 付 〇 8 W □ , 8 ● ー 付 7

旭川医科大学病院ICUにおける倫理カンファレンスの取り組み

旭川医科大学病院 ICUナースステーション 早坂彩音

当院ICUでは年間死亡退院約30名おり、終末期となる過程において患者本人への意思決定支援や家族への代理意思決定支援など、倫理的問題への対応が求められることが多い。以前にも、倫理カンファレンスが必要な患者は多くいたが、必要なタイミングでのアプローチはできず、スタッフは違和感をもったままであった。そこで2019年度より専門看護師が中心となり、スタッフの感受性向上に向けた勉強会や事例検討会が行われた。

昨年度より、倫理カンファレンスに力を入れて取り組んでおり、ジョンセンらの4分割表を用いて情報共有を行い、倫理的問題やケアの方向性について話し合いを行っている。カンファレンスに参加できないスタッフにも伝わるよう、倫理カンファレンスファイルを用いて情報共有をしている。その結果、倫理カンファレンスは2019年度10件に対して、2020年度は25件開催され増加傾向にある。また、医師や理学療法士、臨床工学技士、薬剤師など多職種を含めた倫理カンファレンスもできるようになってきている。

多職種カンファレンスでは、倫理的問題への職種間の認識の違いはあるが、それぞれの意見を取り入れ「患者の最善」につながる意思決定支援を経験することができている。しかし、検討時期の判断が遅れることもあり、オンタイムでの倫理カンファレンスの開催が難しいことも多い。

この看護シンポジウムでは、当院ICUでの倫理的問題への対応について実践例を用いて、現状を紹介したい。